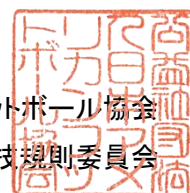


2025年度・公式規則変更予定報

公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



公益社団法人日本アメリカンフットボール協会競技規則委員会では、現在2025年秋季公式戦から適用される公式規則の変更作業を実施中です。

この「2025年度・公式規則変更予定報」は、本年の公式規則変更を予定している主要項目に関して概要を説明し、各競技団体の早めの対応を可能にするために発行されるものです。本予定報に記載している内容は、今後の作業により追加あるいは変更の可能性があります。

*正式には本年7月上旬に発表予定の「2025年度・公式規則変更内容・決定報」で公示いたします。

注*: 当委員会は、NCAA(全米大学体育協会)の競技規則変更内容をベースに変更作業を行っています。

NCAAでは、4月下旬に規則変更内容が決定され、その後NCAAの競技規則書発行時に、編集上の変更項目等が織り込まれます。本予定報は現時点の情報をもとに、競技規則委員会で決定されたものです。決定報では、改訂後のNCAA競技規則書を反映し、競技規則委員会が決定したものを公示いたします。

2025年度・公式規則変更予定主要項目

2025年度の公式規則変更として予定している主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる予定の公式規則・公式規則解説書における主たる「篇章一条」を表します。

(1) アイシールドの規定の追加

☆ 従来、アイシールドは、無色透明で、型を使用して作られ(鋭利な角や断面がない)、強度が確保されていることと規定されていた。

★ 本年より、上記に加え、全米大学体育協会(NCAA)から透明度について許可を得られた、鏡面処理や反射効果のない透明に近いアイシールドを使用することができるという規定が追加される。

(1-4-6-c 追加)

(2) 試合の映像を閲覧するための機器の規定の変更

☆ 昨年度より、当該試合中の映像のみを視聴するための標準的なタブレットは、コーチングボックス、サイドライン、ロッカールームでの使用が許されていたが、大きな映像や追加の映像を映し出すために他の機器に接続することは禁止されていた。

★ 本年より、ハーフタイム中にロッカールームでは、タブレットを他の機器に接続して、大きな映像を映し出すことが可能となる。

(1-4-11-a 例外3 変更)

(3) 無効なシグナルの規定の追加

- ☆ 従来、“T”シグナル(両手を肩の下で横方向に広げる事)は無効なシグナルではなかった。
- ★ 本年より、フリー キックのプレー中の B チームのプレーヤーによる“T”シグナルも無効なシグナルとなる。(2-8-3-b 追加)

(4) スクリメージ キック フォーマーションの規定の変更

- ☆ 従来、スクリメージ キック フォーマーションとなるための条件として、スナッパーの両脚の間から手渡しでスナップを受けるプレーヤーがいないこと等が規定されていた。
- ★ 本年より、スクリメージ キック フォーマーションとなるためには、スナッパーのフレームの範囲内にはキッカーとなる可能性のあるプレーヤー以外のプレーヤーが位置していないこと、およびスナッパーからキッカーとなる可能性のあるプレーヤーまでの直線上に(スナップの障害となる)プレーヤーが位置しないことが条件となる。(2-16-10-a 変更)

(5) 超過節におけるタイムアウトの回数の変更

- ☆ 従来、超過節では、両チームに各超過節に 1 回ずつのチーム タイムアウト、および各超過節の間(第 1 と第 2 超過節の間、第 2 と第 3 超過節の間、等)にメディア タイムアウトが認められていた。メディア タイムアウトがない場合は、2 回目および 4 回目の超過節終了後に 2 分間の休憩(レフリー タイムアウト)が取られていた。
- ★ 本年より、超過節のチーム タイムアウトは、1 回目および 2 回目の超過節では、両チームに各超過節に 1 回ずつ、3 回目の超過節以降試合終了までの間に、両チームに各 1 回のみが認められる。メディア タイムアウトは 1 回目と 2 回目の超過節の間、および 2 回目と 3 回目の超過節の間のみに認められる。メディア タイムアウトがない場合は、2 回目の超過節終了後のみに 2 分間の休憩(レフリー タイムアウト)を取る。(3-1-3-h 変更)

(6) 負傷者のためのタイムアウトの規定の追加

- ☆ 従来、負傷したプレーヤーが出た場合、プレー終了後およびデッドボール中であればいつでもレフリー タイムアウトが取られ、負傷したプレーヤーが出たタイミングは関係なかった。
- ★ 本年より、次のプレーのために審判員によってボールが置かれた後に負傷したプレーヤーが出た場合は、そのプレーヤーのチームにチーム タイムアウトが課せられる。チームにタイムアウトが残っていない場合は、ゲームの遅延の反則に対する 5 ヤードの罰則が科される。(3-3-6-a-1 追加)

(7) B チームの 12 人以上のプレーヤーの参加に対する罰則の変更:

前後半残り 2 分を宣告するタイムアウト後

- ☆ 従来、B チームがスナップ時に 12 人以上のプレーヤーがいた場合の反則に対する罰則は、前後半残り 2 分を宣告するタイムアウトの前後に関わらず、計時についての特別な規定はなく、ライブボール中の反則で、プレビマス スポットから 5 ヤードの罰則であった。
- ★ 本年より、前後半残り 2 分を宣告するタイムアウトの後、スナップ時に 12 人以上の B チームのプレーヤーがフィールドにいて、プレーに参加した場合、5 ヤードの距離罰則に加え、ゲーム クロックをスナップ時に戻し、スナップでの計時開始を選択することができる。12 人目のプレーヤーがスナップ時にフィ

ールドから離れようとしていてプレーに影響がない場合は、従来どおり5ヤードの距離罰則の施行が選択でき、ゲーム クロックをスナップ時に戻すことはできない。(3-5-3-c 罰則 変更)

(8) スクリメージ キック プレーでのディフェンス ラインマンの規定の変更

☆ 従来、A チームがスナップ時にスクリメージ キック フォーメーションの場合、スクリメージ ラインから1ヤード以内にいる B チームのプレーヤーは、スナップ時にスナッパーのフレームより完全に外側にセットしなければならなかった。

★ 本年より、スナッパーがスクリメージ ラインの端に位置している場合、上記の規定は適用されない。

(6-3-14-a 変更)

(9) スナップ前のディフェンスの動作の規定の明確化

☆ 従来、スクリメージ ラインから1ヤード以内にいるディフェンスのプレーヤーは、通常の動きと異なる素早い動作、突然の動作、または大げさな動作をしてはならなかった。

★ 本年より、スクリメージ ラインから1ヤード以内にいるディフェンスのプレーヤーは、「明白にオフェンスの反則(フォルス スタート)を誘うような、」通常の動きと異なる素早い突然の動作、または大げさな動作をしてはならないと明確化される。

(7-1-5-a-4 変更)

(10) 相手を混乱させるシグナルの規定の明確化

☆ 従来、ディフェンスは、オフェンスがボールをプレーに移そうとするとき、相手のプレーヤーを混乱させるような言葉やシグナルを用いること、またオフェンスのスタートに似せた音や拍子などでオフェンスのスタートを妨害するようなディフェンスのシグナルは禁止されていた。

★ 本年より、上記に加え、「ムーブ(move)」および「ステム(stem)」はディフェンスが使用する言葉として限定され、オフェンスによる使用が禁止されることが規定される。また、オフェンスはクラップ(clap)(手を叩いて拍子を打つこと)をスタートのシグナルとして使用することができること、ディフェンスによるクラップが禁止されることが明記される。

(7-1-5-a-5 変更)

(11) スナッパーに対する接触の規定の変更

☆ 従来、スクリメージ キック フォーメーションの場合、スナップ後 1 秒間経過するまでは、ディフェンスのプレーヤーからスナッパーに対して接触してはならなかった。

★ 本年より、スナッパーがスクリメージ ラインの端に位置している場合、上記の規定は適用されない。

(9-1-14 変更)

(12) インスタント リプレーに関するレフリーのアナウンスの変更

☆ 従来、インスタント リプレーによるレビューを行った結果は、ビデオの証拠により、フィールド上の判定が確認(コンファーム)された場合、フィールド上の判定のまま(スタンド)となった場合、またはフィールド上の判定を変更(オーバーターン)する場合に分けて、レフリーによるアナウンスが行われていた。

★ 本年より、ビデオの証拠により、フィールド上の判定が確認(コンファーム)された場合、またはフィールド上の判定のまま(スタンド)となった場合、レフリーは「レビューの結果、フィールド上の判定が支持(upheld)されました」とアナウンスする。確認(コンファーム)およびフィールド上の判定のまま(スタンド)

という言葉は使用しない。

(12-6-1-d 変更)

以上